

令和元年度版 多忙化改善計画

山梨県立甲府工業高等学校

No.	項目	現状と課題	H32年度に目指すべき状態	①H31年度に実施する内容 ②H32年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	会議時間が長い。会議資料が会議当日に配付されることが多く、内容の説明が長くなる。	資料は事前配付して、会議での提案はタイムマネジメントの意識を持って臨み、時間短縮を図る。	①全ての会議で、会議前日までに資料を配付する。また、提案は分掌ごとにまとめ、簡潔に行うことで時間を短縮する。 ②各会議の効率化を図り、開催回数の縮減等を検討する。	
2	学校行事の負担軽減	学校行事の実施に当たり、PDCAのサイクルが十分とは言えない。	行事が情性で行われていないかを検討し、効率良い行事の実施に努める。	①行事実施後の反省をしっかりと行い、改善点を明確にする。 ②教育効果が最大限となるような行事を実施すると共に、行事の精選もできる限り検討する。	
3	校内組織の見直し	分掌内での業務が、特定の教員に偏っている。	分掌主任（ミドルリーダー）を中心に、分掌内での業務の平準化を図る。	①チームで業務を処理するために、各分掌内で情報共有を行う。 ②校務分掌検討委員会において、校務分掌、部・委員会、学校行事等の精選を検討する。	
4	業務の効率化	調査・報告等の文書は年々増加し、文書作成に大きな負担がある。	提出書類作成の削減を要望するが、校内では精一杯の取り組みとして、負担の軽減を検討する。	①引継書の有効活用や電子ファイルの整理等により、翌年の業務や担当者の交代に対応する。また、Webアンケート等も活用する。 ②提出書類の分担や電算化等について検討する。	
5	部活動の負担軽減	平日・休日ともに部活動指導の負担は相当に大きい。顧問の複数配置で指導をお願いしているが、各部の事情もあり、難しい現状がある。	複数顧問で役割分担をして、効率的な運営を図る。また、部の再編も検討する。	①部活動休養日等を適切に設定する。また、毎月第1・第3月曜日を「きずなの日」として放課後に部活動や会議を設定しない。 ②週休日、休日等における年間の部活動指導回数について、全ての教員が86回未満となるようにする。	
6	地域人材の活用	部活動指導で専門外の顧問が指導で苦慮している場面がある。	外部指導者等による専門的な競技指導をお願いする。	①各顧問が指導力を向上させるための研修会等に積極的に参加する。 ②外部指導者の増員と謝礼等について検討する	
7	(学校独自の項目) SPH	文部科学省のSPHに5年間の研究指定を受け、2年目の研究を進める。	学年進行で進めていくなかで、前年度の反省点を生かしている。	①関係する会議を既存の会議(職員会議等)に抱き合わせて実施する。 ②研究開発に伴い過度負担とならないよう検討する。	
8	(学校独自の項目) 専攻科	2020年度設置予定の全日制専攻科について準備を進めている。	専攻科設置に向け、教育課程やシラバスの完成、入試の滞りない実施を行う。	①入試、教育課程、デュアルシステムの内容を確定するとともに、中学生への周知に取り組む。 ②専攻科実施によって本科の負担とならないよう検討する。また、専攻科専任教員の配置等も要望する。	